



ソース **SVM** を再アクティブ化する ONTAP 9

NetApp
April 24, 2024

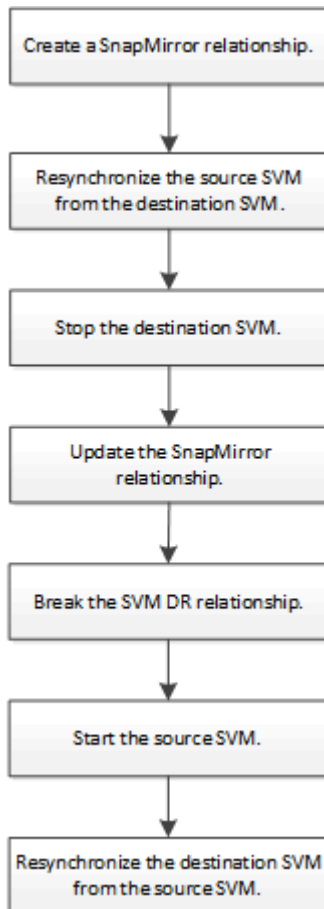
目次

ソース SVM を再アクティブ化する	1
ソース SVM の再アクティブ化ワークフロー	1
元のソース SVM を再アクティブ化する	1
元のソース SVM を再アクティブ化する（FlexGroup ボリュームのみ）	5

ソース SVM を再アクティブ化する

ソース SVM の再アクティブ化ワークフロー

災害発生後もソース SVM が残っている場合は、そのソース SVM を再アクティブ化し、SVM ディザスタリカバリ関係を再作成して保護できます。



元のソース SVM を再アクティブ化する

デスティネーションからデータを提供する必要がなくなった場合は、ソース SVM とデスティネーション SVM 間で元のデータ保護関係を再確立できます。手順は、1 つの例外を除いて、ボリュームレプリケーション用の手順とほとんど同じです。ソース SVM を再アクティブ化するには、デスティネーション SVM を停止する必要があります。

作業を開始する前に

デスティネーションボリュームからデータを提供している間にそのサイズを拡張した場合は、ソースボリュームを再アクティブ化する前に、元のソースボリュームを十分拡張できるように max-autosize を手動で増やす必要があります。

"デスティネーションボリュームが自動的に拡張される状況"

このタスクについて

ONTAP 9.11.1以降では、を使用して、ディザスタリカバリのリハーサル中の再同期時間を短縮できます
-quick-resync true のオプション snapmirror resync SVM DR関係の逆再同期を実行する際のコマンド。迅速な再同期により、Data Warehouseの再構築およびリストア処理をバイパスすることで、本番環境に戻るまでの時間を短縮できます。



クイック再同期では、デスティネーションボリュームのストレージ効率は維持されません。クイック再同期を有効にすると、デスティネーションボリュームで使用されるボリュームスペースが増加する可能性があります。

この手順は、元のソースボリュームにあるベースラインが損なわれていないことを前提としています。ベースラインが損なわれている場合は、手順を実行する前に、データの提供元のボリュームと元のソースボリュームの関係を作成して初期化する必要があります。

コマンドの完全なコマンド構文については、マニュアルページを参照してください。

手順

1. 元のソース SVM または元のソースクラスタから、元の SVM DR 関係と同じ設定、ポリシー、および ID 保持設定を使用して、リバース SVM DR 関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロンの(:)を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション (Options) 以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元であるSVM間の関係を作成します。 svm_backup` および元のソースSVM `svm1` :

```
cluster_src::> snapmirror create -source-path svm_backup: -destination-path svm1:
```

2. 元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、データ保護関係を反転します。

```
snapmirror resync -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロンの(:)を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション (Options) 以下の例を参照してください。

再同期の際にベースライン転送は不要ですが、再同期には時間がかかる場合があります。再同期はオフピークの時間帯に実行することを推奨します。



ソースとデスティネーションに共通の Snapshot コピーが存在しない場合、このコマンドは失敗します。使用 snapmirror initialize をクリックして関係を再初期化してください。

次の例は、元のソースSVM間の関係を反転します。 svm1` およびデータの提供元のSVM `svm_backup` :

```
cluster_src::> snapmirror resync -source-path svm_backup: -destination
-path svm1:
```

quick-resyncオプションの使用例：

```
cluster_src::> snapmirror resync -source-path svm_backup: -destination
-path svm1: -quick-resync true
```

3. 元のソース SVM へのデータアクセスを再確立する準備ができれば、元のデスティネーション SVM を停止して、元のデスティネーション SVM に現在接続されているクライアントをすべて切断します。

```
vserver stop -vserver SVM
```

次の例は、現在データを提供している元のデスティネーション SVM を停止します。

```
cluster_dst::> vserver stop svm_backup
```

4. を使用して、元のデスティネーションSVMの状態がstoppedであることを確認します vserver show コマンドを実行します

```
cluster_dst::> vserver show
```

Vserver	Type	Subtype	Admin State	Operational State	Root Volume
Aggregate					
-----	-----	-----	-----	-----	-----
svm_backup	data	default	stopped	stopped	rv
aggr1					

5. 元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、反転した関係の最終更新を実行し、元のデスティネーション SVM から元のソース SVM にすべての変更を転送します。

```
snapmirror update -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元である元のデスティネーションSVMの間の関係を更新します,svm_backup`および元のソースSVM `svm1`：

```
cluster_src::> snapmirror update -source-path svm_backup: -destination
-path svm1:
```

6. 元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、反転した関係のスケジュールされた転送を停止します。

```
snapmirror quiesce -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元のSVM間のスケジュールされた転送を停止します。svm_backup`および元のSVM `svm1`:

```
cluster_src::> snapmirror quiesce -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1:
```

7. 最後の更新が完了し、関係のステータスが「Quiesced」と表示されたら、元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、反転した関係を解除します。

```
snapmirror break -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元であった元のデスティネーションSVM間の関係を解除します。svm_backup`および元のソースSVM `svm1`:

```
cluster_src::> snapmirror break -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1:
```

8. 元のソース SVM が以前に停止されていた場合は、元のソースクラスタから元のソース SVM を起動します。

```
vserver start -vserver SVM
```

次の例は、元のソース SVM を起動します。

```
cluster_src::> vserver start svm1
```

9. 元のデスティネーション SVM または元のデスティネーションクラスタから、元のデータ保護関係を再確立します。

```
snapmirror resync -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のソースSVM間の関係を再確立します。 svm1`および元のデスティネーションSVM `svm_backup`:

```
cluster_dst::> snapmirror resync -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup:
```

10. 元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、反転したデータ保護関係を削除します。

```
snapmirror delete -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のデスティネーションSVM間の反転した関係を削除します。 svm_backup`および元のソースSVM `svm1`:

```
cluster_src::> snapmirror delete -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1:
```

11. 元のデスティネーション SVM または元のデスティネーションクラスタから、反転したデータ保護関係を解放します。

```
snapmirror release -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のデスティネーションSVM svm_backupと元のソースSVMの間の反転した関係をリリースします。 svm1

```
cluster_dst::> snapmirror release -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1:
```

完了後

を使用します snapmirror show コマンドを実行して、SnapMirror関係が作成されたことを確認します。コマンド構文全体については、マニュアルページを参照してください。

元のソース SVM を再アクティブ化する（FlexGroup ボリュームのみ）

デスティネーションからデータを提供する必要がなくなった場合は、ソース SVM とデスティネーション SVM 間で元のデータ保護関係を再確立できます。FlexGroup ボリュ

ームを使用しているときに元のソース SVM を再アクティブ化するには、元の SVM DR 関係を削除して元の関係を解放してから、関係を反転するなど、いくつかの追加手順を実行する必要があります。また、スケジュールされた転送を停止する前に、反転した関係を解放し、元の関係を再作成する必要があります。

手順

1. 元のデスティネーション SVM または元のデスティネーションクラスタから、元の SVM DR 関係を削除します。

```
snapmirror delete -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のソースSVM svm1と元のデスティネーションSVMの間の元の関係を削除します。

svm_backup:

```
cluster_dst:> snapmirror delete -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup:
```

2. 元のソース SVM または元のソースクラスタから、Snapshot コピーはそのまま保持したまま元の関係を解放します。

```
snapmirror release -source-path SVM: -destination-path SVM: -relationship-info  
-only true
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のソースSVM svm1と元のデスティネーションSVMの間の元の関係をリリースします。

svm_backup。

```
cluster_src:> snapmirror release -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup: -relationship-info-only true
```

3. 元のソース SVM または元のソースクラスタから、元の SVM DR 関係と同じ設定、ポリシー、および ID 保持設定を使用して、リバース SVM DR 関係を作成します。

```
snapmirror create -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元であるSVM間の関係を作成します。 svm_backup`および元のソースSVM `svm1:


```
cluster_src::> snapmirror create -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1:
```

4. 元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、データ保護関係を反転します。

```
snapmirror resync -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

再同期の際にベースライン転送は不要ですが、再同期には時間がかかる場合があります。再同期はオフピークの時間帯に実行することを推奨します。



ソースとデスティネーションに共通の Snapshot コピーが存在しない場合、このコマンドは失敗します。使用 `snapmirror initialize` をクリックして関係を再初期化してください。

次の例は、元のソースSVM間の関係を反転します。svm1`およびデータの提供元のSVM `svm_backup`:

```
cluster_src::> snapmirror resync -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1:
```

5. 元のソース SVM へのデータアクセスを再確立する準備ができたなら、元のデスティネーション SVM を停止して、元のデスティネーション SVM に現在接続されているクライアントをすべて切断します。

```
vserver stop -vserver SVM
```

次の例は、現在データを提供している元のデスティネーション SVM を停止します。

```
cluster_dst::> vserver stop svm_backup
```

6. を使用して、元のデスティネーションSVMの状態がstoppedであることを確認します `vserver show` コマンドを実行します

```
cluster_dst::> vserver show
```

Vserver	Type	Subtype	Admin State	Operational State	Root Volume
Aggregate					
-----	-----	-----	-----	-----	-----

svm_backup aggr1	data	default	stopped	stopped	rv

7. 元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、反転した関係の最終更新を実行し、元のデスティネーション SVM から元のソース SVM にすべての変更を転送します。

```
snapmirror update -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元である元のデスティネーションSVMの間関係を更新します,svm_backup`および元のソースSVM `svm1`:

```
cluster_src::> snapmirror update -source-path svm_backup: -destination-path svm1:
```

8. 元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、反転した関係のスケジュールされた転送を停止します。

```
snapmirror quiesce -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元のSVM間のスケジュールされた転送を停止します。 svm_backup`および元のSVM `svm1`:

```
cluster_src::> snapmirror quiesce -source-path svm_backup: -destination-path svm1:
```

9. 最後の更新が完了し、関係のステータスが「Quiesced」と表示されたら、元のソース SVM または元のソースクラスタから次のコマンドを実行して、反転した関係を解除します。

```
snapmirror break -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、データの提供元であった元のデスティネーションSVM間関係を解除します。 svm_backup`および元のソースSVM `svm1`:

```
cluster_src::> snapmirror break -source-path svm_backup: -destination-path svm1:
```

10. 元のソース SVM が以前に停止されていた場合は、元のソースクラスタから元のソース SVM を起動します。

```
vserver start -vserver SVM
```

次の例は、元のソース SVM を起動します。

```
cluster_src::> vserver start svm1
```

11. 元のソース SVM または元のソースクラスタから、反転した SVM DR 関係を削除します。

```
snapmirror delete -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のデスティネーションSVM svm_backupと元のソースSVMの間の反転した関係を削除します。 svm1 :

```
cluster_src::> snapmirror delete -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1:
```

12. 元のデスティネーション SVM または元のデスティネーションクラスタから、反転した関係を解放し、Snapshot コピーはそのままにします。

```
snapmirror release -source-path SVM: -destination-path SVM: -relationship-info  
-only true
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のデスティネーション SVM svm_backup と元のソース SVM svm1 の間の反転した関係を解放します。

```
cluster_dst::> snapmirror release -source-path svm_backup: -destination  
-path svm1: -relationship-info-only true
```

13. 元のデスティネーション SVM または元のデスティネーションクラスタから、元の関係を再作成します。元の SVM DR 関係と同じ設定、ポリシー、および identity-preserve 設定を使用します。

```
snapmirror create -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のソースSVM間の関係を作成します。 svm1 ` および元のデスティネーションSVM `svm_backup :

```
cluster_dst:> snapmirror create -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup:
```

14. 元のデスティネーション SVM または元のデスティネーションクラスタから、元のデータ保護関係を再確立します。

```
snapmirror resync -source-path SVM: -destination-path SVM:
```



で、SVM名のあとにコロン（:）を入力する必要があります -source-path および -destination-path オプション（Options）以下の例を参照してください。

次の例は、元のソースSVM間の関係を再確立します。 svm1 および元のデスティネーションSVM `svm_backup`:

```
cluster_dst:> snapmirror resync -source-path svm1: -destination-path  
svm_backup:
```

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。